浄泉寺報

第33号
２０２３年
お盆

昨年の盆会での住職法話の様子

目覚めよ　- その一 -

浄泉寺住職　望月廣三

「七転び八起き」という興味深い言葉があります。何度失敗しても屈せず奮起するたとえであり、人生の浮き沈みがはなはだしいことのたとえであると、辞書にあります。

何度失敗しても屈しないで立ち上がる力に、私は、大いなる興味と感動を覚えます。いったいその活力はどこから湧いてくるのか、何が原因でそんな気力を生じさせられるのか、とても興味を持ちます。

そこで、この活力、気力のことを仏教でどう教えているか調べてみると、「逆縁（ぎゃくえん）」という言葉に出会いました。つまり人生の苦しみや悲しみがかえって立ち上がるエネルギーになるのだ、と教えられているのです。これには驚きました。活力や気力は全然別物というか、苦しみとは無縁のもの、苦しみは苦しみでしかない、苦しみからは何も生まれないーそう思っていたのです。

ところが仏教は、「お前の絶望がお前を奮起させるのだ」と言われるのです。こう教えられると私には「なるほど」と頷（うなず）けるものがあります。なぜなら、自分を奮起させる起爆は「苦しみ」から生じていることにきづくからです。

「苦しみ」は単なる苦ではないのだ、と思い知らされるからです。

（つづく）

浄泉寺からのお知らせ

● 秋彼岸のお参り ●

九月のお彼岸のお参り日程は、後日お葉書にてお知らせします。

● 同朋会（どうぼうかい）（月例法座）●

浄泉寺では、毎月お勤めと住職の法話を中心にした同朋会を開催しています。ぜひご参加ください。

- 若坊守（わかぼうもり）のひとりごと -

先日、九歳の娘に「人はいつかどうせ死ぬのに、なんでわたしは生きてるん？」と問われました。「死ぬって怖い」とも言うので、いのちとは何か、生きるとは何なのかと一緒に考えました。

「生死」という言葉は「せいし」と読み、生と死は別のものと考えます。しかし仏教では「しょうじ」と読み、生と死は別ではないと考えます。私達は死から逃れようとしますが、生は常に死を内包していて、死から逃れることは絶対に叶いません。いのちにとって大切なことは「死から逃げること」なのでしょうか。生きることは娘の言う通り「死ぬまでの虚しい時間」なのでしょうか。

虚しいのは、今、不思議に生きているこの身の事実に、自分では気が付かないからです。元気な時は生きていることが当たり前の人生になっていますが、娘のようにふと生きることに虚しさがよぎります。人が本当に生きるとはどういうことなのか、娘の「なんで？」という問いから、また改めて考えさせられました。

（浄泉寺若坊守・釋尼彌名）

お内仏（仏壇）に座る ㉛ ～ 得 度 ～

浄泉寺所蔵の『御絵伝』より、親鸞聖人「得度剃髪」の場面。蝋燭の灯りに照らされながら剃髪をする若き親鸞聖人が、黒い衣を着た３人の僧侶の中央に描かれます。左手に座る朱色の衣を着た僧侶が慈鎮和尚。『御絵伝』は、報恩講の際掛けられます。ぜひご覧ください。

「明日ありと思う心の仇桜 夜半に嵐の吹かぬものかは」（[意訳]明日も変わらず咲いているだろうと思って眺める綺麗な桜の花も、夜中に嵐が吹けば儚く散ってしまうのと同じように、私の命もいつ終わるともわかりません。だからこそ、今、仏の道を歩みたいと思うのです）。これは、親鸞聖人が９歳で得度された時に詠まれたと伝えられている和歌です。

９歳の親鸞聖人は、伯父に連れられ、青蓮院の慈鎮和尚のもとで出家得度のお願いをします。ところが、慈鎮和尚は「今はもう夜も更けてしまったので、僧侶になる得度の儀式は明日にしましょう」と仰います。そのことを受けて、親鸞聖人が詠ったのが冒頭の和歌です。

一切の人は例外なく刻々と老いつつあり、縁がもよおせば病気にもなり、そして必ず命を終えていかねばならない…。このように、逃れられない「老・病・死」という身の事実を仏教から教えられる私たちは、生まれた瞬間からもうすでに仏法に捕まってしまっています。子どもであろうと、年配者であろうと、仏さまの掌で遊ばされているようなものです。「仏法には、明日と申す事、あるまじく候う。仏法の事は、いそげ、いそげ」と蓮如上人は仰います。

ちなみに、親鸞聖人の得度にならい、真宗大谷派では９歳から得度することができます。また、現在では得度式は午前中に行われるのですが、御影堂の唐戸を閉め切って、夜のごとく薄暗い灯りの中、行われることになっています。

この夏、浄泉寺に新たな僧侶が誕生します。９歳になった娘・一海が仏弟子・釋尼一海として、仏道を歩むことになります。今後ともお育てください。なお、得度式の様子は、次号にて写真を掲載予定です。　（浄泉寺若院・釋亜世）

令和５年(2023 年)年忌表

ご法事（年忌法要）は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	令和 4 年(2022 年)亡
三回忌	令和 3 年(2021 年)亡
七回忌	平成 29 年(2017 年)亡
十三回忌	平成 23 年(2011 年)亡
十七回忌	平成 19 年(2007 年)亡
二十五回忌	平成 11 年(1999 年)亡
三十三回忌	平成 3 年(1991 年)亡
五十回忌	昭和 49 年(1974 年)亡

＜発行元・問い合わせ＞
真宗大谷派　楠林山　浄　泉　寺　　電話 0799-22-4798
〒656-0026 洲本市栄町４－３－４３
ホームページ http://jyosenji.asei.info